

ブックスタート事業の復活を求める請願

令和5年6月28日

青森市議会議長 奈良岡 隆 様

青森市大野若宮 165-19
新日本婦人の会青森支部
支部長 北 田 文 子

紹介議員 小 熊 ひと美
蛭 名 和 子
村 川 みどり

(請願の趣旨)

私たち新日本婦人の会は、女性の要求実現と子どもの幸せ、平和と暮らしの向上を目指し、全国で運動している国連NGOの女性団体である。

ブックスタート事業とは、ブックスタート活動をサポートするNPOブックスタートのホームページによると、「0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい『体験』と『絵本』をセットでプレゼントする活動です。抱っこぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを『すべての赤ちゃん』に届けます。赤ちゃんの幸せを願い、行政と市民が連携して行う自治体の事業です」とある。

青森市では、平成17年8月からブックスタート事業を開始し、4か月健診の際にブックスタートパックの配付と読み聞かせを会場で行っていた。青森市のブックスタートパックの購入費は、令和元年度は年間で158万7492円だった。

ところが、青森市は令和2年4月からブックスタートパックを4か月健診で配付する事業を廃止してしまい、本を紹介するパンフレットを配付するだけとなった。健診で絵本をもらった経験のある保護者たちから「とてもショック」、「予算を削るところが間違っている」などの声も上がった。私たちは令和3年第1回青森市議会定例会にもブックスタート事業復活を求める請願を提出したが、その請願がかけられた民生環境常任委員会において、青森市からの「約5割の方がその絵本を持っているということで交換しているという状況」との説明により、誤解して「半数以上の方が要らないという事業をそのまま復活させる必要性は感じられない」と発言する委員がいた。そして、そのまま本会議に報告されてしまった。しかし、新日本婦人の会青森支部が担当のあおもり親子はぐくみプラザに確認したところ「絵本を要らないと言った方はいない。『その本は持っています』と答えて別な本を選んで持っている」とのことだった。

また、私たちは令和3年に青森市内の子育てをしている人を対象にアンケートをとり、110人から回答を得た結果、95人(86.4%)の方がブックスタート事業復活を望んでいた。

以前までNPOブックスタートのホームページでは、ブックスタート事業を開始して2年経過した青森市でブックスタートに関わっている方々の座談会の様子が掲載され、「ブックスタートの様子を見ると、やっぱり子どもは絵本が好きなんだと感じます。家のどこかに絵本があると、子どもは必ず手を伸ばすけれど、それがあかないかでは、やはり大きな違いがあります。だから、そういう環境を全ての子どもの周りに整えてあげるといこと

は、大人の大切な役割だと思うんです」という司書の声が紹介されていた（青森市がブックスタート事業を廃止したためか、現在はホームページから削除されている）。

身近に本がある生活の入り口として、そして親子のふれあいを育む意味でも、全ての家庭に本が配られるブックスタート事業は、子どもたちや子育てをする保護者にとって、とても大切な事業と考える。

以上のことから、以下のとおり請願する。

（請願事項）

ブックスタート事業を復活すること。